

特別講座 フローレンス・ナイチンゲール ( Florence Nightingale, 1820, 5, 12 ~ 1910, 8, 13 ) の生涯と現代医療・社会 駿台予備学校生物科講師 朝倉幹晴

「40億年 一期一会」ランチタイム講座

～ 未来の医療従事者と患者，そして故堀池依子先輩に捧ぐ～

「人は過ちを犯したとき，どうするだろうか。この物語は，過ちを犯したひとりの若い女性と，彼女がその後どのように責任をとったかを語ったものだ」

あの方のお顔を見たことがある

茨の冠がからみついた燦然たる頭部と

同じ光を発しているのを。

三度、わたしをお呼びになった

一度は一八三七年二月七日、われに仕えよと

一度は一八五二年五月七日、救い主たれと

一度は一八六五年七月二十八日、十字架にかけられよと。

これまで以上に苦しむために

苦しみ <sup>アウト・バテイ・アウト・モリ</sup> が 死

十字架に架けられればお顔が見えるだろうから。

わたしはあの方に捧げられたのだろうか？

( Florence Nightingale-Avenging Angel 和訳本「ナイチンゲール 神話と真実」訳者あとがき ( みすず書房，田中京子訳) 発行より)

## 年表

スクタリでの多数死者責任問題 解明の2つの背景

衛生改革派 ( チャドイック ) vs 医学研究重視派 ( 細菌説強調派，サイモン )

文民統制派 ( パーマストン内閣 ) vs 王権派 ( ヴィクトリア女王 ) ・陸軍省

ヴィクトリア王朝時代という混沌へのつきない興味 ( 現代日本に似る？ )

「ただ者ではないもの者」どうしがすれ違ったら、

1809 ( ダーウィン誕生 )

1819 ( ヴィクトリア ( のちの女王 ) 誕生 ) ( 姉パーシ・ノーブ誕生 )

1820 ( 5, 12 ) フローレンス・ナイチンゲール誕生

( 両親のイタリア滞在中フィレンツェ = フォロレンス市で誕生 )

1831 ( 12, 27 ) ( ダーウィン，イギリス軍艦ビーグル号 ( 館長フィッツロイ ) に乗り込みイギリスを出航，22歳 )

1835 ( ビーグル号，ガラパゴス諸島に到着，「神に見捨てられた島」)

1836 (ビーグル号, 世界一周を終えイギリスに到着)

1837 (2,7) 神のお告げ 「われに仕えよ」を聞く

(ヴィクトリア女王即位)

1839 社交界初舞台

1840 父の許しで, 数学の家庭教師を受ける

1843 (7-9月) 貧しい人々の小屋で病人たちの世話

1844 (ダーウィン, 熱心なキリスト教徒エマと結婚し, ロンドンを離れダウハウスの住み, ビーグル号資料分析に没頭)

1845 病院勤務計画, 姉・母の反対で挫折 精神的に落ち込む

1845 (エンゲルス(マルクスの相棒), 「イギリスにおける労働者階級の状態」で大都市衛生問題をチャドイック見解に言及しながら指摘)

1846 マルクス、ロンドンに亡命

1846 シドニー・ハーバード夫妻(のちにナイチンゲールをクリミアに派遣)に会う

1848 (公衆衛生法可決。衛生委員会のチャドイック指名)

1849 ミルンズの求婚断る

1852 (5,7) 神のお告げ 「救い主たれ」

1853 淑女病院の看護監督として着任。能力を発揮

1853 クリミア戦争開戦(オスマン帝国とロシア)

1854 (英仏(トルコ), ロシアの南下政策に対抗すべくクリミア戦争勃発)

(夏) 衛生委員会解散, チャドイック失脚(衛生改革派, 不人気に)

(10,9~13) タイムス紙, 従軍記者ラッセルの傷病兵の惨状記事3回連載掲載

(10,21) 戦時大臣シドニー・ハーバードの命を受け, ナイチンゲール看護団出発

(11,5) スクタリ兵舎に到着

(12月) ヴィクトリア女王による激励うける

スクタリに看護第2派遣団(メアリー・スタンレー)到着。クリミア前線行きにナイチンゲール反対。スクタリから8km先のクラリに拠点。

(マーサ, クラフ, シスター, パーサら, 一部看護婦, ナイチンゲールの反対を押し切って, クリミア前線に行き, 救命に貢献)

1855

(1) スクタリの死亡者数最悪に

(2) パーマストン政権誕生(陸軍大臣パンミュア, 内心は衛生改革派)

(3) 衛生調査団, サザランド(衛生改革派医師)ら到着

物資補給調査委員会 マクニール・タロック(衛生改革派)到着

(11) 詩人ロングフェロー, ナイチンゲールの詩を読む

「見よ! このつらい時間に ランプを手にした婦人が おぼろげな闇を通して部屋から

部屋へと過ぎゆくのがみえる すると、至福の夢をみているかのように、ゆっくりと 患者は黙って向きを変え 彼女の影が落ちるとき その影に口づけをする」

(11) シドニー・ハーバード、ナイチンゲール基金呼びかけ

(11) パンミュア宛手紙「この冬にスクタリに送られてきた兵士たちが亡くなったのは、瀕死の状態になってからようやく送られてきたためですー今では手遅れにならないうちに送られてくるので、彼らは死ぬことなく快復しています」

1856

(1) マクニール・タロック委員会、議会で報告書提出

(4) クリミア戦争終結

(7) スクタリを發つ

(夏) マクニール・タロック報告を軍で議論したが将校は無罪になる

(10) ヴィクトリア女王とパンミュアに面会

(11) ウイリアム・ファー、タロック、マクニールらとチームを作り、クリミア戦争での病院での死亡原因に関する極秘報告書作成をスタート

(この時点で、ナイチンゲールが手紙に書いた 16 点の分析注目点のうち衛生は 2 点のみ。飢餓と風雨のさらされたこと、物資補給の遅れが原因と考える)

1857

(5~7月) 軍の健康を調査する王立委員会

(5,11) マクニール宛手紙

「スクタリでの大惨事の原因は、換気の不足、排水の不備、不潔さ（あまりに不愉快でこれ以上申し上げることはできません）、入院生活を楽にする品々の不足、驚くほどの過密状態であると迷うことなく申し上げます」

(スクタリ死因、責任追及をやめ、国内衛生と野戦病院改革の方向で向かうことをナイチンゲール・パンミュア・シドニー、ハーバードら暗黙合意)

(8) ナイチンゲール極秘報告書「陸軍の保健に関する覚書」作成完了、スクタリの病院の衛生状況が原因との結論。有力者に送りつける。自責の念で虚脱状態。以降、終生、頻繁に病床に伏す。温泉で静養、父が見舞いに訪問

「『ランプを持った貴婦人』として、その名を一躍有名にしたクリミア戦争から帰国後、37 歳のナイチンゲールは突然虚脱状態に陥り、10 年もの間、病床にあった。その原因については、これまでに様々な推測がなされてきたが、著者はこの謎の病臥についてこう述べる。彼女が倒れたのは罪の意識にさいなまれたからだ、と」(「ナイチンゲールー神話と真実」裏表紙紹介文)

(ダーウィン、長女アニーが 10 歳で病死し、キリスト教から離れる)

1859 「病院覚書」第 1 版、発行(第 3 版は 1963 年)

「病院がそなえているべき第一の必要条件は、病院は病人に害を与えないことである、とこ

ここに明言すると、それは奇妙な原則であると思われるかもしれない。ところがこの原則は  
ぜひと最初に打ち出しておかなければならない。というのは、病院、それも特に人口の  
密集している都市の病院《の中での》死亡率が、病院《以外の場所で》手当を受けている  
患者について予想できる同種の病気の死亡率よりも、はるかに高いからなのである。」

(細菌学説強調派・医学研究重視派サイモンのロンドンなど都市部病院集中方針を批判)  
(1859,11,24 ダーウィン「種の起源」発行)

#### 1859,12「看護覚書」(第1版)発行

「この覚え書は、看護の考え方の法則を述べて看護婦が自分で看護を学べるようにしようと  
したものではありません、ましてや看護婦に看護することを教えるための手引書でもな  
い。これは他人(ひと)の健康について直接責任を負っている女性たちに、考え方のヒント  
を与えたいという、ただそれだけの目的で書かれたものである」

「彼女のもっとも先鋭な著作である、有名な『看護覚え書』は実際のところ、反医師、反  
病院、反病院看護の宣伝だった」(「ナイチンゲール 神話と真実」)

1860 国際統計学会でナイチンゲール標準病院統計、採択される(しかし普及せず)

1860 「思索のためのヒント」発行

(「われわれの経験では、自責の念を抱きながら、過去の過ちにいつまでもこだわると、将  
来正しいことを追及するのに必要とされる精力をすべて使い果たしてしまうことになりま  
す」)

「熱心な看護婦 それがわれわれの目標です。病院は文明への中間点にすぎません。病院  
の仕事にわが生涯を捧げながら、わたしは病院は貧しい病人にとっては最良の場所ではな  
いという結論に達しました」(Baly 「神話と真実」より)

「すでにご存知と思いますが、あらゆる看護の究極の目的は患者をそれぞれ自分の家でみ  
ることです・・・わたしは病院や救貧院の診療所などはすべて廃止されることを期待し  
ています。でも西暦 2000 年のことを話してもどうしようもありません」((Baly 「神話と  
真実」より)

(1860, 6,28 イギリス科学振興協会総会で、創造説支持派のウイルバーホース司教とダ  
ーウィン支持派ハックレーとの対決。ビーグル号館長フィッツロイは創造説支持でダーウ  
イン批判。のちに自殺)

1861 シドニー・ハーバード(元戦時大臣),アーサー・クラフ(ナイチンゲール秘書)死去  
アメリカ南北戦争始まる(ナイチンゲール極秘報告,活用されず,衛生悪化で死亡多)

#### 1862 看護婦訓練学校創立の指導(実務はラズボーン)

インド駐在軍衛生委員会の仕事

#### 1865(7,28)神のお告げ 「十字架にかけられよ」

兵舎・病院問題小委員会、陸軍衛生委員会と改称され常設委員会に  
(これまで以上に苦しむために 苦しみか死(out battery out mori))

- 1867 ナイチンゲール助産婦訓練学校閉鎖
- 1868 グラッドストーンが首相となり，影響力弱まる
- 1873 ナイチンゲール看護婦訓練学校再建に着手
- 1880 地域看護運動に乗り出す
- 1881 (ダーウイン「ミミズと土」発行)
- 1882,4,19 (ダーウイン死去(73歳))
- 1886 看護婦登録制度論争。登録制に反対。
- 1893 「病人の看護と健康を守る看護」発行**  
 「一，新しい芸術であり科学でもあるものが，最近40年の間に創造されてきた。  
 そしてそれとともに新しい専門職業と呼ばれるもの—われわれは天職  
 (calling)と呼んでいるのであるが—が生まれてきた」
- 1901 ヴィクトリア女王死去・退位(軍，王権から離れ文民統制へ)
- 1910 フローレンス・ナイチンゲール死去**
- 1913 「看護覚え書」日本語訳が日本赤十字社より「看護の栞(しおり)」として出る
- 1914 クック「ナイチンゲール—その生涯と思想」発行
- 1936 ハリウッド映画「白衣の天使」上映開始**  
 「映画のなかでのシーンもナイチンゲールに対して同じ効果を与えている。彼女のよ  
 うに，バラクラヴァの病院の前に座ることで，ナイチンゲールは，英国陸軍の医療体  
 制さえ譲歩せねばならないほどの共感を引き起こす。これは映画のヒロインにとって人  
 間と感情の勝利である。彼女は不正の前での静かな不服従の姿勢によって共感をひき起  
 こし，悪魔のようなハント医師および非人間的で冷たい官僚機構に対して勝利をおさめ  
 たのだ。看護の母は，政治的立ち回りのうまい行政官 実際のナイチンゲールはそうで  
 あったが—としてではなく，モラルの力を通じて勝利する受難のしもべとして描かれて  
 いる」(「看護婦はどう見られてきたか」)
- 1940 宮本百合子「フロレンス・ナイチンゲールの生涯」
- 1949 スミス「ナイチンゲールの生涯」発行
- 1961 堀池依子生まれる(長崎)(翌年、朝倉、愛知)
- 1965 国際看護協会(本部/ジュネーブ)5月12日を「国際看護の日」に制定
- 1977 ナイチンゲール著作集全3巻(現代社)発行**
- 1980 ナイチンゲール研究会発足(薄井担子ら)(堀池依子，東大理 入学)
- 1981 スミス「ナイチンゲールの生涯」日本語訳(現代社)発行
- 1985~88 2006年度駿台予備校生の主流世代誕生**
- 1988 Images of Nurses: Perspectives from History, Art, Literature  
 (Anne Hudson Jonesら)発行
- 1990 **厚生省，5月12日を「看護の日」に制定**(看護の日の制定を願う会(敬称略) 発  
 案・呼びかけ 中島みち メンバー 秋山ちえ子 石川美代子 高久史磨 高原須美子 橋田壽賀子

日野原重明 柳田邦男 吉武輝子 吉利和)

日本医学界新聞，堀池（神谷）依子ら対談「医学部に入った私たち」

1991 堀池依子，学士入学した大阪大学医学部卒業(大学院に通いながら病院勤務)

1993 クック「ナイチンゲール—その生涯と思想」日本語訳発行（時空出版）

1994 堀池依子，永眠 32 歳

1997 **Images of Nurses: Perspectives from History, Art, Literature**, 日本語訳

「看護婦はどう見られてきたか 歴史，芸術，文学におけるイメージ」(時空出版)

発行（中島憲子，堀池依子ら大阪大学医学部環境医学教室の女性研究者ら訳）

1996 「英国文化の世紀 3 女王陛下の時代」(研究社出版) 発行

第 4 章「ダーウイニズムの波紋」 第 7 章「ナイチンゲールの看護改革」

「以上，本書がとりあげた，主としてヴィクトリア朝最盛期の社会の「諸相」のあらましを述べた。ここに収められた九篇の論説を通して，繁栄と進歩の時代の文化のさまざまな局面を浮かび上がらせることができたと思う。ここに提示されたのは，もちろん政治や経済や思想や芸術など複数の領域にまたがる重要で興味深いテーマ群である。したがって相互に関連した分野の研究を当然にも要請している問題群である。本書が今後におけるこのような共同研究や学際的研究の推進に向けて，いささかなりとも資するところがあれば幸いである。」

1999 「Florence Nightingale Avenging Angel (直訳 復習する天使)」(Hugh Small)

「保健婦 『普通』を守る仕事の難しさ」(荘田智彦，家の光協会) 発行

(「『介護保険』の制度化などで，訪問看護のニーズが増えて，多くの看護婦が地域に出るようになったけれども，病院での臨床看護の訓練しか受けてこなかった看護婦にすぐ地域で訪問をやれといっても難しいですよ。新カリキュラムでは，どの学生も『在宅看護』を学ぶことになっていますが，日本にはそれを教えられる人がほとんどいないです。面白いことに，あのナイチンゲールがね，150 年も前に，“地域看護婦”を育てることが，看護教育の究極の目的とっていますよ。ぜひ，読んでごらん下さい。今でも少しも古くないことにきっと驚かだるうと思いますよ」(訪問看護師，加藤登志子さんの著者へのアドバイス))

1999 京都府立医大、チャドイックに言及した公衆衛生思想 sanitary idea) の歴史出題

2001 朝倉，船橋市中核市移行に伴い、千葉県船橋保健所が船橋市保健所に移行されるにあたっての地域医療における保健師の役割のあり方の提案調査の過程で、上記著作を読み，以降ナイチンゲールに関する調査スタート

2002 宮地尚子「学問のクレオール ~もしくは 亡き友への手紙」(一橋学叢)

2003 岩手医大、ナイチンゲール見解(に近い見解) 出題

2004 「Florence Nightingale Avenging Angel」(Hugh Small)日本語訳

「ナイチンゲール 神話と真実」(みすず書房，田中京子訳) 発行

「人は過ちを犯したとき，どうするだろうか。この物語は，過ちを犯したひとりの若い女性と，彼女がその後どのように責任をとったかを語ったものだ」(訳者あとがき)

2004 センター試験世界史「ナイチンゲール」出題

- 2004、5、12 ナイチンゲール特別授業（駿台予備学校千葉校を皮切りにスタート）  
 2005、5、2 朝倉，調査の過程で堀池依子先輩の死とその研究業績を初めて知る  
 2006 長崎訪問、看護覚え書き英文読書会  
 2007 ナイチンゲール，スクタリ病院死因分析と決意 150 年  
 2008、7月 イギリス訪問（漫画化？）  
 2016？ 皆さんが医師・医療従事者か研究者か患者（医療消費者側）に  
 （その時、ナイチンゲールの生き様や堀池依子さんのような視点をぜひ参考に）

次の文章を読み、下の問に答えなさい。

What is sickness? Sickness or disease is Nature's way of getting rid the effects of conditions which have interfered with health. It is Nature's ( (1) ) to cure. We have to help her. Diseases are, practically ( (2) ), adjectives, not noun substantives. What is health? Health is not only to be well, but to be able to use well every power we have. What is nursing? Both kinds of nursing are to put us in the best possible conditions for Nature to restore or to ( (3) ) health to prevent or to ( (4) ) disease or ( (5) ). Upon nursing proper, under scientific heads, physicians or surgeons, must ( (6) ) partly, perhaps mainly, whether Nature succeeds or ( (7) ) in her attempts to cure by sickness. Nursing proper is therefore to help the ( (8) ) suffering ( (9) ) disease to live just as health-nursing is to keep or put the condition of the healthy child or human being in such a ( (10) ) as to have no disease.

(注) nursing proper: 本来の看護 interfere: 妨げる

問1. 下線部 と を訳しなさい。

問2. 文中の空所(1)～(10)に入る適語を下から選び、記号で答えなさい。

- |             |              |              |           |
|-------------|--------------|--------------|-----------|
| (a) attempt | (b) cure     | (c) depend   |           |
| (d) fails   | (e) from     | (f) injury   |           |
| (g) patient | (h) preserve | (i) speaking | (j) state |

問3. 下線部 は具体的に何をさすか、文中の英語1語で答えなさい。

問4. 下線部 について具体的に英語で2つ例を挙げ、日本語の意味も書きなさい。 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

(2003 岩手医科大)

追加問題 1998WHO総会の「Health」の定義の一部を訳せ。

Health is dynamic of state of complete physical, mental, spiritual and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

WHOは正式には何というか。日本語と英語で書け。

The sanitary idea with its environmental focus continued to exert a central influence in public policy in developed countries until towards the end of the nineteenth century, when \*the germ theory of disease paved the way for \*immunization and \*vaccination which introduced a shift of emphasis from environmental action towards personal prevention. In turn this era was superseded by the therapeutic era, dating from 1930s with the advent of \*insulin and the \*sulphonamide drugs. Until that time it has been argued by McKeown(1976) that there was little of proven therapeutic efficacy available. Since the 1930s and until the early 1970s, public policy on health in Britain and in many other countries was dominated by treatment orientation and an implicit assumption that magic bullets could be provided by the pharmaceutical industry for all conditions.

By the early 1970s the therapeutic era was increasingly being challenged. Most countries were experiencing a crisis in health care costs, not least those developing countries which had been misled into adopting the new Western fashion of large hospitals and \*cadres of expensively trained professionals; the first of these siphoned off the bulk of the health care budget leaving little for the rural areas or for primary care, the second \*undermined the traditional practitioners without replacing them as new professionals proved reluctant to work outside the fashionable areas of the large towns. From this experience, the twin concepts of (a)Primary Health Care and an emphasis on Community Development began to emerge.

In the United Kingdom, McKeown's statistical analysis which demonstrated that most of the decline in infectious disease \*mortality in England and Wales between 1840 and 1970 preceded effective therapeutic intervention, provided a powerful rationale for a revived interest in public health and preventive medicine. McKeown(1976) concluded that, in order of importance, the major contributions to improvements in health in England and Wales had been

- 1 limitation of family size(a behavioural change)
- 2 increase in food supplies
- 3 a healthier physical environment(environmental influences)
- 4 specific preventive and therapeutic measures.

McKeown's work provides a constant reference point in what has come to be known as the New Public Health an approach which draws crucially from the environmental, personal preventive and therapeutic eras and seeks a synthesis. Its focus is on public



policy as well as on individual behaviour and lifestyle and increasingly it is being seen in an ecological context which has a focus on \*holistic health. One of the key events in the development of this new momentum for public health was the publication in 1974 of the Lalonde Report *A New Perspective on the Health of Canadians* in Canada. This report was in essence a restatement of the tradition of public health reports leading to policy which went back to Chadwick, but which, ironically, was about to be abandoned as one of the consequences of local government reorganization in the United Kingdom. The kind of \*community diagnosis which the Canadian report represents has since been taken up around the world and at different levels of population \*aggregation; With the WHO Health Cities Project it has helped to stimulate the revival of city health reports.

Since the Lalonde Report was published(1974),shape has been given to the new public health movement by a series of initiatives from the World Health Organization, starting with the Alma Ata declaration on Primary Health Care in 1977 and \*culminating in the Healthy Cities Project in 1986. The central elements of these initiatives are a focus on the condition of the poor and less advantaged, the need to reorientate medical services and health systems, away from hospital care and towards primary health care and the importance of public involvement and of partnership between the public, private and voluntary sectors.

The concept of Health Promotion which restates the importance of policy and environmental action as well as individual behaviour change has been influential in moving from a victim blaming to a more conventional public health approach.

(Cites from *Healthy Cities* (Open University Press)by John Ashton)

注： the germ theory 細菌学説 immunization 免疫 vaccination ワクチン接種  
insulin インスリン（糖尿病の治療薬として用いる）  
sulphonamide drugs サルファ剤（感染症の化学療法薬として用いる）  
cadres 組織（複数形） undermine むしばむ mortality 死亡率  
stray ~ from はなれる holistic 全人的な community diagnosis 地域診断  
aggregation 集団 culminate in ~ ~に帰する

問1 下線部（a）の Primary Health Care とはどのような概念と考えられるか。

本文全体を読んで考えられることを日本語 100 字以内で簡潔に述べなさい。

問2 筆者は本文全体を通じてどのようなことを主張しようとしているのか。日本語 300 字以内で述べなさい。

問3 本文を読んで、あなたはどのように考えるか。思うところを日本語 400 字以内で述べなさい。

[ 1999 年 京都府立医科大学 / 後期 / 総合問題 )

## 解答例

問1 病気または疾患とは、健康を妨げている諸条件の影響を取り除くための、自然の過程である。

健康とは、単に体調が良いというのみならず、われわれが持つ全ての力をきちんと発揮できる状態である。

問2 1 a 2i 3h 4b 5f 6e 7d 8g 9e 10j

問3 Nature 問4 physician 内科医 surgical 外科医

## 全訳

病気とは何か？病気(sickness 1)または疾患(disease)とは、健康を妨げている(interfere with 2),諸条件の影響を取り除く(get rid of)ための、自然の過程(Nature's way)である。それは回復(治癒、治療 cure 3)しようとする自然の努力(attempt 試み)なのだ。われわれは自然(の作用)に助力しなければならない。実際には(事実上は、practically speaking),様々な病気は、(状態の)形容詞(adjective,略号 adj)であって、実在を示す(substantive 4)を表す名詞(noun)ではないのである。健康とは何か？健康とは、単に体調が良いというのみならず、われわれが持つ全ての力をきちんと発揮できる状態である。看護(nursing)とは何か？病気またはケガ(injury)の予防(prevent)や治療(cure 3)という両方の種類の看護はともに、自然の力で健康を回復(restore)したり健康を保つ(preserve)ように、われわれを可能な限り最良の状態にするためのものである。自然の力は病気の症状をひき起こすことによって治癒することを試みるのだが、それが成功するか失敗するかは、部分的に、あるいは大部分が、科学的な指導者(科学分野の長)たる内科医(physician)や外科医(surgeon)のもとに行われる本来の(proper)看護にかかっているに違いない。したがって(therefore),本来の看護とは、病気に苦しむ患者が生きながらえるよう力になることなのである。それは、健康管理によって健康な子どもや大人が健康状態を維持したり、病気の無い状態になるのと全く同じことである。

1 Illness 健康(元気)でない状態、イギリスでは「病気」を意味する普通の語・アメリカではやや形式ばった語で比較的重い病気

Sickness イギリスでは「病気」の他に「吐き気」を意味する。アメリカでは「病気」を意味する普通の語。

Disease 原因の突き止められる特定の病名のつく病気(日本語では上記「病気」と区別し「疾患」と訳す)。「病気」を表す一般的な語。健康状態がそこなわれる。

Disorder diseaseより広義で「体の不調」

Ailment 軽い、または慢性の disease

Malady 原因のはっきりしない、または重い disorder

Obunsha's Comprehensive English-Japanese Dictionary に少し加筆

2 類似語 interferon インターフェロン（生物学・医学では I F N と略記）

ウイルスに感染した動物細胞が産生する抗ウイルス因子として 1950 年代の発見され、ウイルスの増殖を妨害する（interfere）ことから intergeron と命名された。

その後、細胞増殖抑制効果、抗腫瘍効果など広範囲の生体防御機構に重要な役割を果たしていることがわかり、治療に用いられている。

炎症部位で活性化されたリンパ球をはじめ多種類の細胞で刺激により産生され、他の細胞に働き他の細胞を活性化する物質一般をサイトカイン（cytokine、cyto - は細胞の意味）というが、インターフェロンもその一種。

3 同じ cure であるが、前半は自己治癒力を前提にした言葉であり、ナイチンゲールの有名の「看護覚え書き」の訳語「病気とは回復過程である」の意識して「回復」と訳した。後半は、看護者による患者への働きかけを前提にした言葉であり、「治療」と訳した。

4 substantive（名詞としての意味）名詞（形容詞としての意味）現実の、実在を示す。

Health is dynamic state of complete physical, mental, spiritual and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

（1998 年 WHO（世界保健機構 World Health Organization）は「健康」(Health)を、  
う「完全な身体的、精神的、スピリチュアル（霊的、いのち）な及び社会的福祉の躍動的な状態であり、単に疾病あるいは病弱の存在しないことではない」

2006 年 5 月 20 日（土）駿台予備学校市谷校で講演された帯津良一医師（帯津三敬病院院長）も強調されていた physical, mental, spiritual の 3 観点

世界保健機構 World Health Organization

問 1 プライマリーヘルスケアは、医療を病気の予防・治療だけに限定せず、地域レベルでの環境改善や、様々な医療サービスや健康保険制度の改善も視野に入れた総合的な衣料を目指す概念であると考えられる。

問 2 20 世紀初頭までには、健康という概念は環境の改善と個人の予防が中心であったが、1930 年代にインスリンとサルファ剤が出現すると、予防から治療の時代に入り、病院での治療に重点が移った。しかし、1970 年代に入ると大病院と専門家を中心とする医療は経済的に困難になり、かつ専門家は都市に集中し、地域に根差した開業医が不足するなど、医療は制度的に大きな困難に直面した。また伝染病による死亡率の低下も個人の行動や環境の変化が重要と証明された。そこで地域の発展も視野に入れたプライマリーケアを重視する新しい公衆衛生の概念が必要になった。その中でより総合的な医療を目指すプライマリーヘルスケアの考え方が広まっている。

問 3 各自考える。

## 全訳

環境に焦点をあてた公衆衛生 (sanitary, 「公衆便所」の意味も 類 sane 正気な) 思想は, 19 世紀終盤まで, 先進国の公的政策に中心的影響力を発揮してきたが, その当時, 病気の細菌学説のおかげで免疫やワクチン接種への道が整いつつあった。それによって, 環境に対する活動から個人的な予防へと重点が移っていった。次にこの時代は 1930 年代のインスリンとサルファ剤の出現により, 治療の時代へと代わった。その時までは, McKeown (1876 年) が論じていたように, 利用可能で効果的な治療法だと証明されるものはほとんどなかったのだ。1930 年代から 1970 年代初期までは, イギリスやその他の多くの国で健康についての国の政策を支配していたのは, 治療志向と, すべての病気に対して効く魔法の薬が製薬産業によって提供されるという思い込みであった。

1970 年代初期には, 治療の時代は次々と問題が生じてきた。ほとんどの国が, 健康管理の経費における危機に見舞われていた。方向を誤って, 大病院や, 高いお金をかけて教育された専門家組織という近代的な西洋式のスタイルを採り入れた発展途上国は, 特にそうだった。というのは, まず, これらが, 健康管理予算の大部分を搾り取ってしまい, 農村部やプライマリーケアのための予算がほとんど残らなくなったこと, 次にこの西洋スタイルは従来の開業医をむしばみ, 新たに誕生した専門家たちは, 大きな町の高級地区以外で仕事をしなかったもので, 従来の開業医と入れ代わることはなかった。この経験から, プライマリーヘルスケアと地域の発展の重視という, 1 対の概念が頭をもたげてきたのである。イギリスでは, McKeown の統計的分析によって, 1840 年から 1970 年の間のイングランドとウエールズにおける伝染病死亡率の低下の大部分は, 効果的な治療が取り入れられるよりも早く起こったことが証明されたが, このことは, 公衆衛生と予防医学への関心が復活したという強力な理論的根拠となった。McKeown (1976 年) は, イングランドとウエールズの健康改善に大きく貢献したのは, 重要度の順に, 次の 4 点だとの結論を出した。

- 1, 家族の大きさが制限されてきたこと (行動の変化)
- 2, 食糧供給の増加
- 3, より健康的な身体環境 (環境の影響)
- 4, 特別な予防および治療方法

McKeown はまた, 病気は, 生物種が進化してきた環境状態から逸脱しすぎる時に, その集団内で発生する傾向があることを力説した。

McKeown の研究は, 『新公衆衛生学』(環境的な個人予防と治療の時代から決定的に導かれその統合を求めるアプローチ) として知られるようになったものの中で, 不変の評価基準を提供している。その焦点は, 公衆衛生政策だけでなく, 個人の行動と生活習慣にも当てられ, このアプローチは全人的健康に焦点を当てている生態的文脈でますます見受けら

れるようになっている。公衆衛生でのこの新しい傾向が発展していく際の重要な出来事の一つは、1974年にカナダでラロンドーレポート（『カナダ人の健康に関する新しい展望』）が発表されたことであった。このレポートは本質的にはチャドイックの政策にまでさかのぼる伝統的な公衆衛生論の再論だが、その政策は皮肉にも、イギリスでは地方自治体の再編成の結果の一つとして、廃止されようとしていたものであった。カナダの報告書で示されていたこの種の地域診断は、それ以来世界中の様々な層の住民集団で取り上げられてきた。世界保健機構の健康都市計画とともに、地域診断は都市健康レポートの復活に役立ってきたのである。

ラロンドーレポートが1974年に発表されてから、世界保健機構の一連の指導によって新しい公衆衛生運動が形づくられていった。それは、プライマリーヘルスケアに関する1977年のアルマーアタ宣言に始まり、1986年の健康都市計画へとつながるものであった。これらの指導の中心的な要素は、貧しい人々やあまり恵まれていない人々の状態に焦点を当てること、医療サービスや健康制度を再度病院での医療からプライマリーヘルスケアに方向転換する必要性、そして、一般大衆が関与することと、大衆と個人とボランティア部門との間の協力関係の重要性である。個人の行動を変化させるだけでなく、政策や環境に対する活動の重要性をもう1度述べている健康増進の概念が、病因を患者本人に帰すことから、より伝統的な公衆衛生への取り組みへと移っていく中で、大きな影響を与えてきたのだ。（ジョン＝アシュトン著『健康都市』（オープンユニバーシティ出版）より引用）